

がれき処理「業界拳げ協力」

県産廃協会が賀詞交歓会

県産業廃棄物協会（松沢博三会長）は17日、さいたま市浦和区のホテルで新年賀詞交歓会を開き、役員、会員、来賓の上田清司知事や県議ら計200人が出席した。

松沢会長は、東日本大震災の被災地支援について「がれきの処理などは、地域の市町村や住民の理解が必要と



あいさつする県産業廃棄物協会の松沢博三会長。17日、さいたま市浦和区の浦和ロイヤルパインズホテル

なるが、行政が強力に推進し、環境が整備できれば業界を挙げて協力したい」と復旧・復興に尽力する考えを示した。

知事は「被災地のがれき処理は当然、日本中で支援するべき。埼玉県も可能な限りお手伝いしたいと考えている。放射性物質を心配している人もいるが、県内の産業廃棄物以上のものは受け入れるつもりはない」と語った。

会合では、傷ついた野生動物を運搬するための「傷病鳥獣搬送用軽トラック」を県に寄付したとして、知事から協会に感謝状が贈られた。1面参照。

（三宅芳樹）